

6 - 1 中部地方北西部（飛弾地方北部，富山湾及び能登半島周辺）の地震活動（1988年7月～12月）

Seismic Activity in the Northwestern Chubu Region (including the Northern Hida, Toyama Bay and Noto Peninsula Regions), July - December, 1988

京都大学防災研究所

上宝地殻変動観測所

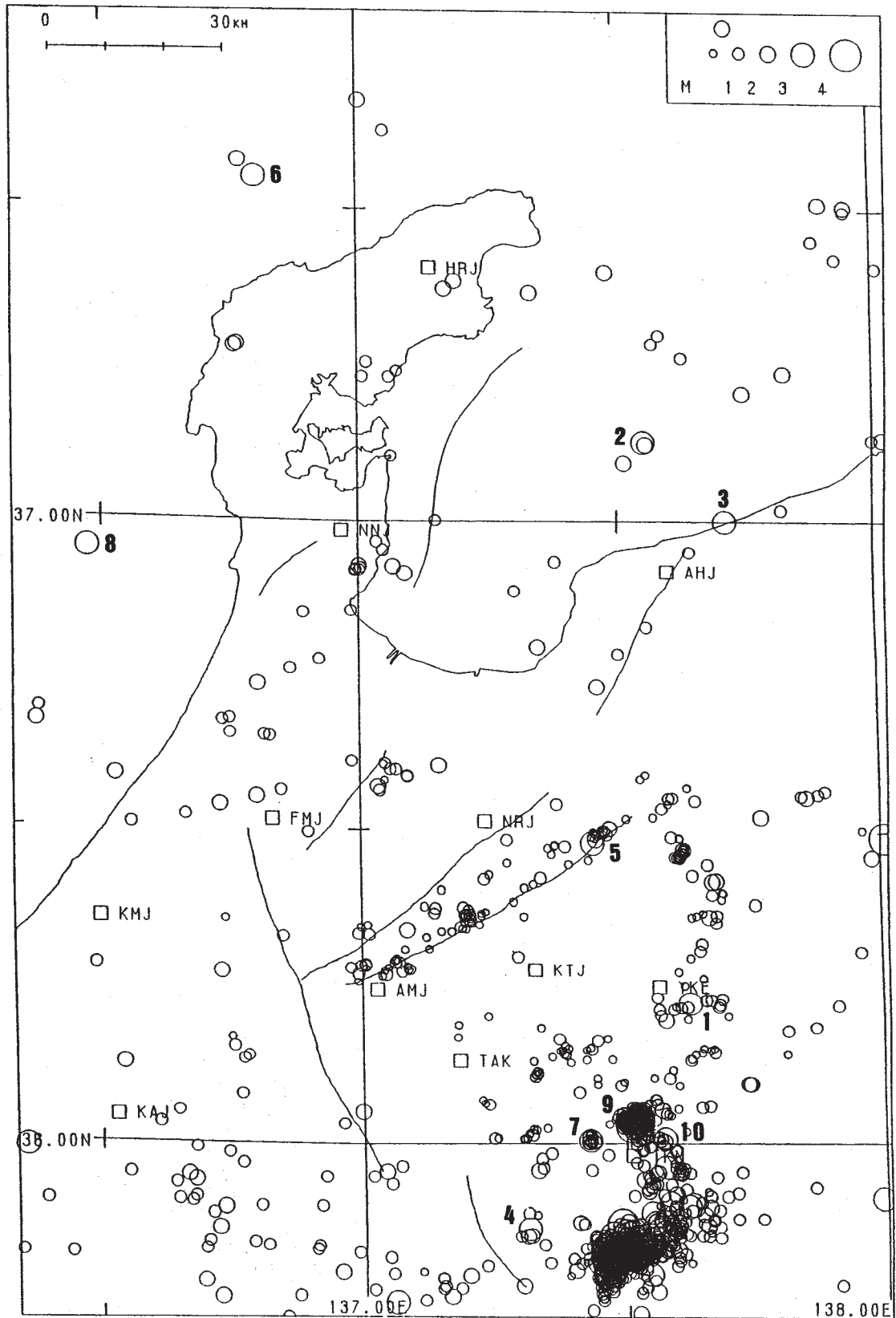
Kamitakara Crustal Movement Observatory
Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

第1図にこの地方における1988年7月より12月までの地震活動状況を示す。このうち主な活動は次の通りである（図中の番号参照）。(1)は7月1日飛弾山脈焼岳付近に起ったM3.1の地震，(2)は7月3日富山湾内のM3.6の地震で富山トラフ東縁に近く，ここでは1988年2月28日にもM3.8の地震が発生している¹⁾。(3)は7月20日富山湾南岸のM3.5の地震である。(4)は8月4日飛騨萩原付近のM3.1，(5)は8月30日跡津川断層東部のM3.0の地震で，何れも定常的な活動である。(6)は9月29日能登半島北方のM3.2，(8)は12月20日能登半島西方沖のM3.0の地震である。(7)は10月11日M3.3，同20日M3.3を含み，高根村西方に発生した群発地震活動である。(9)の飛弾山脈乗鞍岳南西方では依然活発な群発地震活動が継続しており，本年前半の活動¹⁾に続いて，7月15日M3.4，同25日M4.0，8月13日M3.3，同17日M3.2，10月7日M3.1，同29日M3.2の連発地震2個などが起っている。(10)はこの群発活動よりやや東方に10月25日に起ったM3.4の活動である。この南万では長野県西部地震の余震活動が継続しており，7月より12月迄の期間中M4.2の地震2個を含み， $M \geq 3.0$ 以上の余震40個が観測された。第2図は上述の期間を含む1988年1月より12月迄の活動状況を示すが，上に述べた跡津川断層沿いや飛弾山脈南部の活動のほか，富山湾内の富山トラフ東側に沿い東北-南西方向に伸びる比較的活発な活動が注目される。

第3図は(9)に述べた飛弾山脈乗鞍岳南西方の1986年3月7日以来の群発地震活動の時間的变化を示すが，2～3箇月毎の活動の盛衰が見られるようである。第4図は前に述べた(9)の群発活動中の最大の地震(M4.0)，及び(10)の地震のメカニズムを示す。(9)の地震は，1986年3月7日(M5.2)及び4月29日(M4.2)にこの地域に発生した地震²⁾と類似した逆断層型であるが，最大主圧力方向はこれらの場合より東西方向に近い。(10)の場合は通常の横ずれ断層型である。

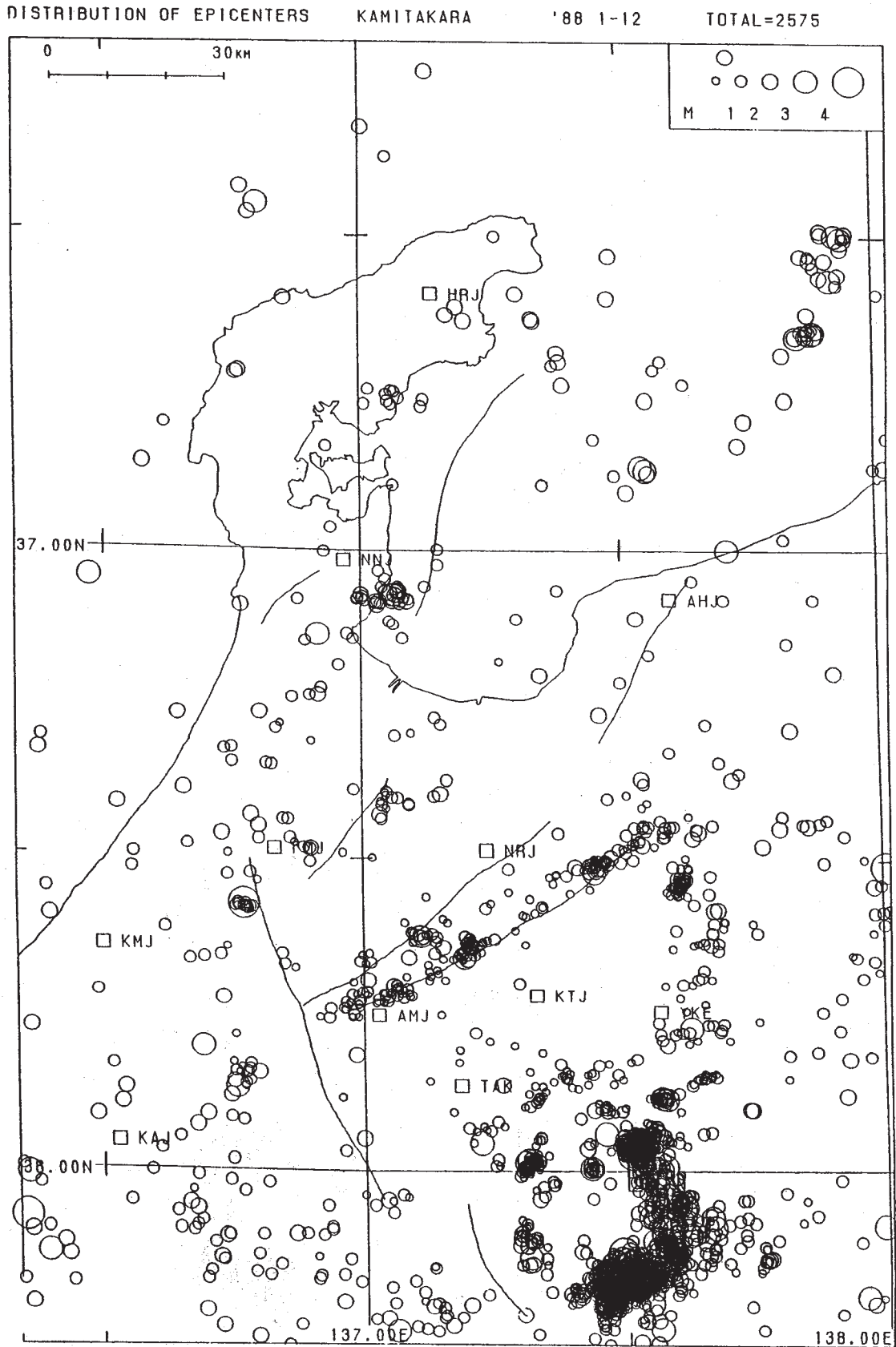
参 考 文 献

- 1) 京都大学防災研究所上宝地殻変動観測所：中部地方北西部（飛騨地方北部，富山湾及び能登半島周辺）の地震活動（1988年1月～6月），連絡会報，**41**（1989），410 - 412.
- 2) 京都大学防災研究所上宝地殻変動観測所：中部地方北西部（飛騨地方北部，富山湾及び能登半島周辺）の地震活動（1988年1月～6月），連絡会報，**36**（1986），296 - 304.



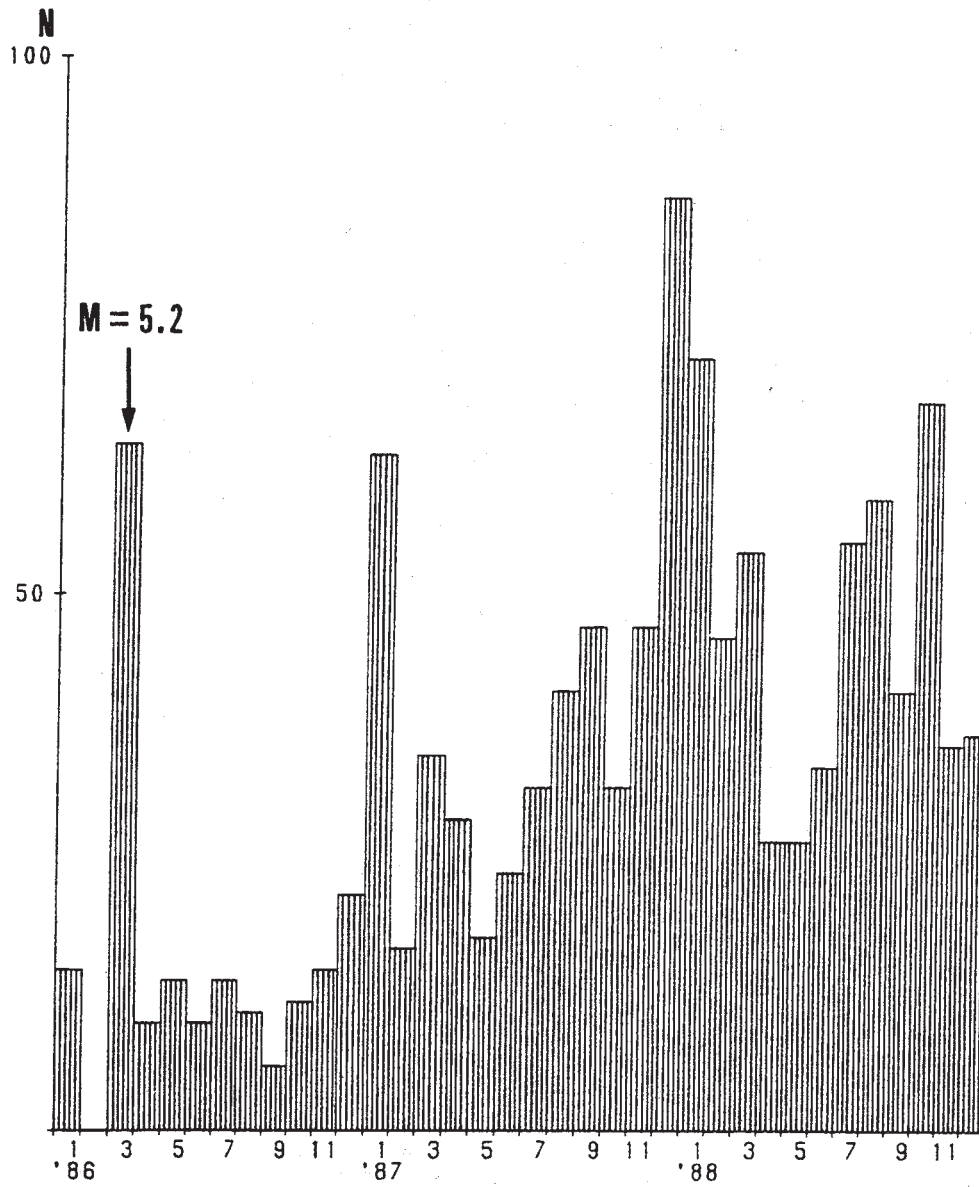
第1図 中部地方北西部（飛騨地方北部、富山湾及び能登半島周辺）の地震活動、
1988年7月～12月

Fig. 1 Seismicity in the Northwestern Chubu Region including the Northern Hida, Toyama Bay and Noto Peninsula Regions, during the period July - December, 1988.



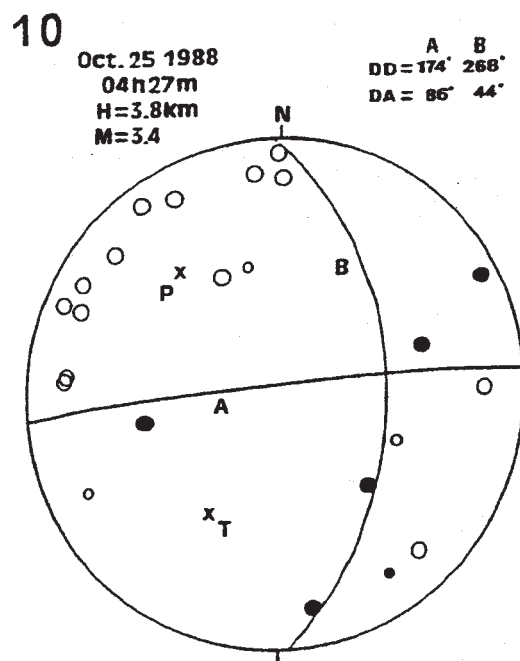
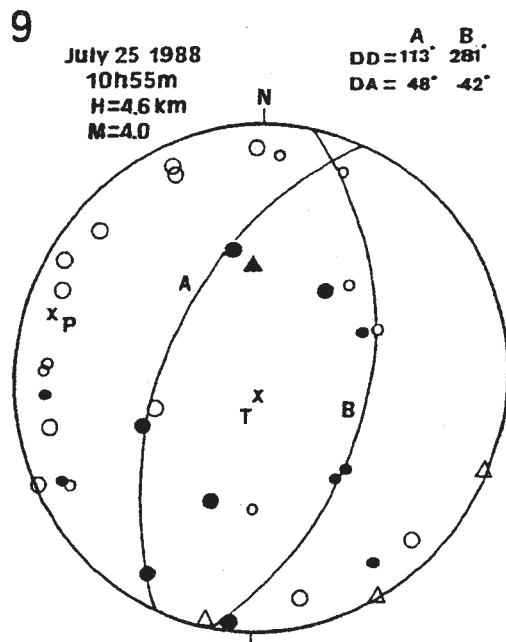
第2図 中部地方北西部（飛騨地方北部，富山湾及び能登半島周辺）の地震活動，
1988年1月～12月

Fig. 2 Seismicity in the Northwestern Chubu Region including the Northern Hida, Toyama Bay and Noto Peninsula Regions, during the period January - December, 1988.



第3図 飛弾山脈乗鞍岳南西方の群発地震活動の時間的变化

Fig. 3 Temporal Variations of Swarm Activity in the Southwest of Mt. Norikura since March 1986.



第4図 (9) 1988年7月25日乗鞍岳南西方の地震 (M4.0) のメカニズム
(10) 1988年10月25日乗鞍岳南方の地震 (M3.4) のメカニズム

Fig. 4 Fault-plane solution of the July 25, 1988 earthquake (M = 4.0) in the southwest of Mt. Norikura (9), and of the October 25, 1988 earthquake (M = 3.4) in the south of Mt. Norikura. (10)